

宇島鉄道とは

宇島鉄道は、大正3年（1914）1月21日から昭和11年（1936）7月31日まで、現在のJR宇島駅前から上毛町有野まで17.7㎞を走っていた軌間762㎞の軽便鉄道です。

明治43年（1910）、軽便鉄道法が施行されたのを受け、明治45年（1912）3月、京築の有志によって宇島鉄道株式会社設立総会を開催、大正3年に開通しました。軽便開通により宇島駅周辺は、沿線からの人々の往来で活気があり、地域の商工業振興に役立っていました。

しかし、宇島鉄道が期待した青の洞門への延線事業は、山国川東岸を走る耶馬溪鉄道の反対で不調となり、さらに耶鉄樋田く柿坂間の開通で観光客や貨物は中津駅経由に移行、道路整備も進み経営環境が悪化、昭和11年全面廃業となりました。

宇島鉄道営業の23年間は、沿線住民の貴重な足となり、耶馬溪観光や各種地場商工業を振興させた功績は大きく、京築地方の開発史にその名を残しています。



宇島鉄道唱歌

作詞 駕海国陽

豊前の物資集散地 宇之島駅に下り立てば
港は千舟百舟の 帆檣林立雲をつく
町の賑ひよそに見て 耶馬の観光せばやどて
乗り込む宇之島鉄道の 汽笛一声進み行く
彼方に巍峨とそびゆるは 世に知られたる犬ヶ岳
千束は名に負う古城址の 昔を偲ぶ宮の杜
塔田を過ぎて岩岳の 川の水上求菩提山
権現詣では黒土の 駅より里程約三里
駅のほとりのイボの神 紅葉に名を得し如法寺や
乳の菩薩と尊崇の 狭間の観音遠からず
豊前平野を右左 遙か周防の海上に
行き交う船の真帆片帆 眺めていつか広瀬橋
経読岳に桧原山 城址に名のある雁股の
秀峰峻嶺眺めつつ いっしか着きぬ安雲駅
お寺参りは光林寺 見よや中津も程近く
遙か彼方にうすがすむ 山は文殊か西予山
小川重本磯貝の つつじ牡丹の花園や
宇野の桜に愛つるには 友枝駅に下るべし
友枝川の鉄橋の 下行く水も面白く
桑原地方の円山に 史跡探るも興あらむ
下唐原の駅近く 眺めの清き能満寺
見るや彼方の大堰に 美談は残る鶴市社
延喜の昔偲ばるる 梅に名高き天満宮
菅公経塚探るには 中唐原に遠からず
上唐原も早や過ぎて 百留付近の百穴を
汽車の窓より眺めつつ 過ぐれば異なる郷の態
見よや彼方は二本杉 此方は白峰妙見宮
中を縫ひ行く山国の 流れを守る兔とび
原井の七石名も高く 薨そびゆる妙円寺
過ぐれば汽車は絶壁の 河辺を又も馳り行く
耶馬の七溪の清流を 一つに注ぐ鮎返り
消えては結ぶうたかたの 響き絶えせぬ水の音
耶馬溪駅に早やつきぬ 前にそばたつ屏風岩
弘法窟に立ち寄りて 遺跡を偲ぶ筆の痕
遊ぶ投筆公園の 春は桜に秋紅葉
絶壁鎖す対岸は 浄土の道か仏坂

上毛・豊前の歴史的産業遺産 「宇島鉄道」を称え継承する

宇島鉄道研究会は、歴史的産業遺産である宇島鉄道を、広く皆さんに紹介しながら伝え継承していくことを目的に、平成27年に上毛町、豊前市の8人で結成、新たなメンバーも加わり、平成28年5月から地域づくり団体に認定され活動しています。

京築地方を支えた「幻の鉄道」

宇島鉄道研究会を結成した経緯は、会の代表である奥田尚志さんが水利組合長を務めていた岩木大池に、池を二分するように横切る石組みの線路跡が残っていることから、ほかの線路跡は現在どうなっているのかと思い、豊前市在住で廃線や戦跡を巡るのが趣味の末延啓二さんを訪ねたことがきっかけでした。

宇島鉄道は、建設や維持費を抑えるために、レールの幅が狭い小型車両を使う軽便鉄道を採用し、大正3年からわずか23年後の昭和11年に廃線になったことが解りました。主な目的は耶馬溪観光でしたが、運搬した材木が炭坑の坑道内に組む木枠に使用されるなど北部九州の炭坑を支えた大事な文化遺産でもあります。しかし、当時の様子を知る人も高齢になり、各地に残っていた線路跡も農地整備や宅地化により消えつつある今、もっと多くの皆さんにそんな「幻の鉄道」を知ってもらいたいと思うようになりました。

かつての鉄路をたどって

鉄道や郷土史に詳しいメンバーも加わり、2カ月に一度の会合で、当時の資料などを調べていましたが、鉄道が廃線になったのが戦前のため、写真も地元の町史、村史などに掲載された数枚のみ。「それなら、実際に宇島鉄道が走っていた鉄路を歩いてみることにしました」と話すのは古原好規さん。宇島鉄道は現在のJR宇島駅近くから千束、塔田、黒土、広瀬橋を渡って上毛町の安雲、友枝、下唐原、中唐原、百留、原井の各駅に停まり、終点の耶馬溪駅（有野）まで、約17キロの区間を宇島から友枝間2往復、宇島から耶馬溪間を3往復



▲岩木大池に残る宇島鉄道線路跡

走っており、光林寺（安雲）も臨時駅となっていたそうです。駅舎はどこも取り壊されていますが、耶馬溪駅舎だけは、後に公民館として利用されたため現存しています。しかし、度重なる改築で当時の面影を残しているのは玄関ポーチの柱など一部のみだと言っています。周辺にはホームやトイレ、倉庫の跡などが残っています。線路の跡は、沿線上に何箇所か盛り土と石組みが残っているだけでした。

廃線から80年、宇島鉄道展開催

そして今年の8月、廃線からちょうど80年を記念して、豊前市立図書館にて「宇島鉄道展」を開催しました。「地元」に汽車が走っていたことを、多くの人に見て、伝えてほしい」との思いを込めて、これまで集めた当時の切符や時刻表、線路を固定していた釘、今に残る橋台の写真、路線を書き込んだ航空写真など、約150点を展示しました。

●問い合わせ先 宇島鉄道研究会

☎090-1085-5605（奥田）



▲耶馬溪駅跡(有野)

終点となる耶馬溪駅は、現在も残されており、当時の面影を偲ぶことができます。弘法窟や梅林公園などがあり、多くの観光客で賑わっていたそうです。



▲耶馬溪駅ホーム跡(有野)

唐原地区は鉄道の開通により、木材や煉瓦の原料になる灰石、礫、薪炭などを八屋に運んでいました。通勤通学や買い物にも利用されていました。



宇島鉄道展では当時の写真や現在の線路跡などを詳しく展示。改めて興味をもたれる方も多くいました。



会場内は常に心地よい歌声が響き、モニターを何回も見つめる方も。メンバー手作りの工作セットも大人気でした。

